

系統研究部門

江原昭善・野上裕生・相見 満・瀬戸口烈司

研究概要

1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究

江原昭善

(i) ヒトおよび各種サル類の下顎骨の機能的・形態学的研究

(ii) ヒトおよび各種サル類の頭蓋底部と姿勢の関連

2) 東海地方出土人骨の研究

江原昭善・木下 実

3) 霊長類の歯の組織学的研究

野上裕生

4) ジャワにおける第四紀哺乳類の研究

相見 満

5) 第三紀霊長類・食虫類・有袋類の研究

瀬戸口烈司他

(i) 南米出土化石について

(ii) 南米大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

論 文

- 1) 瀬戸口烈司 (1988): ヨザルがはらむ霊長類社会進化論への問題点. 季刊人類学, 19: 83-114.

総説・報告

- 1) 江原昭善 (1988): 「霊長類の適応」. 人類学講座第9巻. 雄山閣.
- 2) 江原昭善 (1988): 「人間はいかにして人間になったか」 I、II. 「悠」. 暁星出版.
- 3) 江原昭善 (1988): 「出土人骨の形態」 伊川津遺跡. 渥美町教育委員会.
- 4) 江原昭善他 (1988): 「愛知県西尾市新御堂貝塚出土の中世焼骨および弥生時代人骨について」 西尾市教育委員会.
- 5) 江原昭善他 (1988): 「愛知県刈谷市芋川遺跡出土人骨について」. 刈谷市教育委員会.
- 6) 江原昭善 (1988): 「アフリカ出土の化石人類について」. アフリカ事典. 平凡社.
- 7) 江原昭善 (1989): 「刈谷市出土人骨について」 刈谷市教育委員会史誌.
- 8) 江原昭善 (1989): 「化石に基づく人類の起源と系統」 霊長類の進化と人類の起源に関する

研究の推進. 昭和63年度科研費総合研究(B) 代表: 野沢 謙.

- 9) 江原昭善 (1989): 「縄文時代に生きた人々」 刈谷市教育委員会史誌.
- 10) 江原昭善他 (1989): 「新御堂貝塚出土の弥生時代人骨」 第42回日本人類学会・民族学会連合大会.
- 11) 相見 満 (1988): オオガラゴかオオミミキツネザルか. モンキー 32: 21-23.
- 12) 相見 満 (1988): ニホンザルの遺存体. 伊川津遺跡 (渥美町教育委員会編).
- 13) 相見 満 (1988): 公文遺跡の出土骨. 公文遺 (I) (豊橋市教育委員会編).
- 14) 瀬戸口烈司 (1988): 化石の発見は、勘か、運か、偶然か? アニマ, 193: 98-101.
- 15) 瀬戸口烈司 (1988): 謎を秘めたサル化石が見つかる—京都大学霊長類研究所の南米調査より—. アニマ, 194: 68-69.

学会発表

- 1) 相見 満 (1988): ネオテニー: スマトラに分布するコノハザルの種分化をとく鍵. 霊長類研究, 4: 192.
- 2) 高井正成・瀬戸口烈司 (1988): 南米コロンビアの中期中新世のサキ類化石. 第4回日本霊長類学会大会.
- 3) 瀬戸口烈司・高井正成 (1988): *Kanihystrix* (岐阜県可児市の中新世前期のヤマアラシ科新属) の系統的位置とその意義. 日本古生物学会第137回例会.
- 4) Setoguchi, T., and Shigehara, N. (1988): Fossil primates from the Middle Miocene of La Venta, Colombia. XIIth Congress of the International Primatological Society.
- 5) 瀬戸口烈司 (1988): 南米コロンビアの中期中新世の新発見の化石について. 第42回日本人類学会日本民族学会連合大会.

ニホンザル野外観察施設

岩本光雄(施設長・兼)・東 滋・
渡辺邦夫・足沢貞成¹⁾

- 1) 教務補佐員